

三宅島の現状（その70）

平成16年1月13日
三宅村災害対策本部

【気象および火山活動状況】 12月25日から1月10日

今期間の気象状況は、冬型の気圧配置や高気圧に覆われたため晴れた日が多くなりました。1月4日以降は雲が多い天気が続き、5日には気圧の谷の影響により伊豆地区で21ミリの雨を観測しました。

火山の活動状況は、31日に新島、神津島を震源とする有感地震があり、三宅村神着で震度1を4回観測しました。噴煙の状況は、最大で9日に白色の噴煙が火口上1,000mまで上がっているのが、観測されました。

火山ガス(SO₂)の放出量調査は6日に防衛庁の協力により実施し、約11,000から約14,000トン/日を観測しました。

島内のガス濃度(SO₂)の、今期間最大値は1月2日に三宅村役場で5.0ppmを観測しました。(東京都環境局観測)

【新春】

あけましておめでとうございます。

島も、年末年始を家族のもとで過ごされた防災関係者や作業員の方々が、島に戻っていつものように復旧作業が始まりました。

1月6日の第1陣に続いて1月8日に第2陣、1月10日に第3陣と次々に入島し、現在約600名の防災関係者および作業員の方が滞在しています。

いつもなら正月が過ぎた頃から西の風が吹き荒々しい海になっている時期ですが、今年は冬型の気圧配置が長続きしないせいか、北東風と西風が交互に吹きめまぐるしい天候になっています。

島のいたる所では「椿」の花が太陽の光を燦々と受け、今まさに満開の時期を迎えています。花の間を飛び交う小鳥達はくちばしに黄色い椿の花粉をつけ、大きな声でさえずり暖かな島の新春を満喫しているように見えます。

災害復旧事業に従事する作業員の方の宿泊施設として、今月から大久保地区の民宿2軒がクリーンハウス化し開設されました。今月中に残りの4軒も開設することになっています。これらの宿発施設(クリーンハウス)が完成すると島内滞在施設も大幅に増え、作業員の宿泊受け入れも大きく変わってきます。

【滞在型および日帰り帰宅事業の実施状況】

新年の事業は1月17日から再開されます。

(問合せ先：三宅村災害対策本部 電話 04994-6-1549)

火山ガスと健康影響に関する Q&A

Q せき込んでガスマスクをつけにくい場合、
どうしたらいいの？

A 1、せき込む。

2、急いでガスマスクを口にあてきれいな空気を吸い込みます。

3、ガスマスクを外し咳き込みます。

4、急いでガスマスクを口にあてきれいな空気を吸い込みます。

以上のような動作を繰り返し、落ち着いたらガスマスクをつけます。

せき込んだ後の吸気は深くなります。ガスマスクなしではより多く二酸化硫黄を吸ってしまうことになり危険です。

せき込んでいる時以外はガスマスクを口にあてるようにして下さい。



三宅村議会議員選挙及び三宅村長選挙 立候補予定者説明会の開催について

三宅村選挙管理委員会では、平成16年2月15日（日）執行の三宅村議会議員選挙及び三宅村長選挙に伴う立候補予定者説明会を下記のとおり開催しますので、立候補予定者等関係者は出席してください。

記

1. 日 時 平成16年1月24日（土）
午前10時～
2. 場 所 東京都庁第1庁舎25階115会議室
東京都新宿区西新宿2-8-1
3. 問い合わせ 三宅村選挙管理委員会
03-5320-7783

三宅村議会議員選挙及び三宅村長選挙 のご案内（概要）

三宅村選挙管理委員会

1 三宅村議会議員選挙

告示日	平成16年2月 8日（日）
投票日	平成16年2月15日（日） 午前7時から午後8時まで

次の要件に該当する方が三宅村の選挙人名簿に登録され、村選挙管理委員会が管理する上記選挙の投票ができます。

対象者	1 昭和59年 2月16日以前に出生された方
	2 平成15年10月7日以前に三宅村に転入の届出をし、引き続き三宅村に住民票をおかれている方

○「三宅村に転入」・「三宅村から転出」された方は、別紙資料をご参照ください。

次の要件に該当する方が、上記選挙の立候補ができます。

対象者	1 昭和54年 2月16日以前に出生された方
	2 日本国籍を有する方
	3 平成15年10月7日以前に三宅村に転入の届出をし、引き続き三宅村に住民票をおかれている方

2 三宅村長選挙

告示日	平成16年2月 8日（日）
投票日	平成16年2月15日（日） 午前7時から午後8時まで

次の要件に該当する方が三宅村の選挙人名簿に登録され、村選挙管理委員会が管理する上記選挙の投票ができます。

対象者	1 昭和59年 2月16日以前に出生された方
	2 平成15年10月7日以前に三宅村に転入の届出をし、引き続き三宅村に住民票をおかれている方

○「三宅村に転入」・「三宅村から転出」された方は、別紙資料をご参照ください。

次の要件に該当する方が、上記選挙の立候補ができます。

対象者	1 昭和54年 2月16日以前に出生された方
	2 日本国籍を有する方

投票方法は裏面をご参照ください。

投票方法

1 投票日当日に投票される方

次の投票所で投票ができます。

投票所名	日 時	場 所
新宿投票所	2月15日(日) 午前7時00分 ～ 午後8時00分	東京都庁第一庁舎
港投票所		芝浦小学校敷地内芝浦幼稚園
立川投票所		立川市女性センター

2 投票日当日に投票できない方

次のいずれかの方法で期日前投票・不在者投票ができます。

(1) 新宿(常設)の期日前投票所で期日前投票する

期日前投票所名	期 間	時 間	場 所
新宿期日前投票所	2月9日(月) ～ 2月14日(土)	午前8時30分 ～ 午後8時00分	東京都庁 第一庁舎

(2) 増設の期日前投票所で期日前投票する

不在者投票所名	期 日	時 間	場 所
村山 期日前投票所	2月11日(水)	午前10時00分 ～ 午後4時00分	武蔵村山市村山団地 北集会所
南大沢 期日前投票所	2月14日(土)		八王子市南大沢 南大沢事務所
桐ヶ丘 期日前投票所	2月14日(土)		北区桐ヶ丘団地内 地域振興室
三宅島 期日前投票所	2月11日(水)	午前8時00分 ～ 午後6時00分	三宅村役場 階2

(3) 避難先または滞在先で不在者投票する

方 法	① 1月下旬に郵送される「不在者投票宣誓書兼請求書」に必要事項を記入し、三宅村選挙管理委員会宛に送付する。 ② 不在者投票に必要な書類(投票用紙他)が三宅村選挙管理委員会から送られてきたら、避難先または滞在先の区市町村選挙管理委員会の不在者投票所で投票する。
請求受付期 限	2月5日(木)までに到着するようお願いいたします。 それ以降は間に合わないことが考えられます。
そ の 他	あらかじめ、避難先または滞在先の選挙管理委員会に不在者投票時間等をご確認ください。 土曜日・日曜日・祝日は原則不在者投票ができませんのでご注意ください。

(4) その他

指定病院、指定老人ホーム等での不在者投票、郵便投票(要郵便投票証明書)
詳細については、各施設または三宅村選挙管理委員会にお問合せください。

○今後の選挙関係の郵送スケジュールについて

- ① 投票の案内（詳細版） → 1月下旬発送
- ② 不在者投票請求書兼宣誓書 → 1月下旬発送
- ③ 投票所入場券 → 2月8日から順次発送予定
- ④ 選挙公報 → 2月9日以降順次発送予定

○三宅村選挙管理委員会事務局の移転について

期 間	1/9（金）～三宅村議会議員選挙・三宅村長選挙が終わるまで
住 所	〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1
場 所	都庁第一庁舎 <u>25階 116会議室</u>
電 話	03-5320-7783

○お願い

1 避難先住所等に変更のあった方は、三宅村村民課にご連絡下さい。

選挙関係の郵送物（投票所入場券、選挙公報など）は、避難先データを基に皆様へ送付いたします。

2 投票（期日前投票含む）を行う際は、投票所入場券をご持参下さい。

①通常の場合と投票の管理体制が異なるため、皆様のご理解とご協力をお願いします。

②投票する際、入場券がない場合は、三宅村選挙管理委員会までご一報下さい。

○投票方法の概略

1 昭和59年2月16日以前に出生された方

該当する

該当しない→今回の選挙は投票できません

↓

↓

2 平成15年10月7日以前に三宅村に転入の届出をし、
引続き三宅村に住民票をおかれている方

該当する

該当しない→今回の選挙は投票できません

↓

↓

3 投票日当日の投票 (平成16年2月15日[日])

当日投票できない

投票する→投票所入場券を持って、三宅村選挙管理委員会の新宿・港・立川投票所へ

↓

↓

4 期日前投票・不在者投票

①常設の期日前投票

新宿 期日前投票所 (都庁第1庁舎25階)

②増設の期日前投票

村山 期日前投票所 (村山団地北集会所)

南大沢 期日前投票所 (八王子市南大沢事務所)

桐ヶ丘 期日前投票所 (桐ヶ丘地域振興室2階)

三宅島 期日前投票所 (三宅村役場2階)

※①②で期日前投票当日満19歳の方は不在者投票を行うこととなります。

③避難先または滞在先の不在者投票 上記①②以外

- ・1月下旬に発送される「不在者投票宣誓書兼請求書」に必要事項を記入して三宅村選挙管理委員会宛に送付する。
- ・不在者投票に必要な書類(投票用紙等)が、三宅村選挙管理委員会から送られてきたら、その書類を持って避難先または滞在先の選挙管理委員会へ行く。

④指定病院、指定老人ホーム等での不在者投票 入院、入所している場合

- ・病院や施設の責任者にお問合せください。

⑤郵便投票 重度身体障害者で郵便投票証明書の交付を受けた方

- ・2月5日(木)までに請求するようお願いします。

5 お問合せ先

三宅村選挙管理委員会 TEL 03 - 5320 - 7783

三宅村から転出された方へ

三宅村議会議員選挙及び三宅村長選挙においては、三宅村から転出された方は、投票できません。

○転出された方とは、三宅村から住民票を移された方です。現在、三宅島から避難していても住民票を移していない方は、転出者ではありません。

三宅村に転入された方へ

平成16年2月15日執行三宅村議会議員選挙及び三宅村長選挙において、三宅村に転入された方の投票については、次のとおりとなります。

○前提条件

昭和59年2月16日以前にお生まれの方

1 平成15年10月7日以前に他の区市町村から三宅村に転入の届出を済まし、引き続き三宅村に住民票のある方

→ 三宅村の選挙人名簿に登録され、投票が行えます。

2 平成15年10月7日以降に他の区市町村から三宅村に転入の届出をされ、引き続き三宅村に住民票のある方

→ 投票できません。

※様々なケースがありますので、三宅村選挙管理委員会へお問い合わせください。

問合せ先

三宅村選挙管理委員会事務局

〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1

東京都庁第一庁舎25階116会議室

電話 03-5320-7783

平成16年 1月10日発行

平成16年 1月10日発行
会報 第 8 6 号

会員 数 413名
男 性 168名
女 性 245名

シルバー みやげ

編集・発行
社団法人三宅村シルバー人材センター
東京都千代田区飯田橋3-10-3
シニアワーク東京2階
TEL; 03-3239-4343
FAX; 03-3512-3477



新年明けまして おめでとーございます

会長 平松尚志

今年の元旦こそ、皆さんとご一緒にご挨拶の香ただよ、う渚に立って、水平線を金色に染める初日の出に、じっと手を合わせる幸せを夢見て参りましたが、老いの身の切なくもはかない願いは、今年も、うたかたの如くついでにしまいました。

「光陰矢の如し」と申します。が、ふるさとを離れわびしい仮住まいで四度目のお正月を迎えました。お正月といえ、島にいたころ、手間は「さつま餅」の味を思い出しながら過ごされた方も多かったと、ここでいさつとばせ=都立大・安全就業研修会で

発表！“2003・いい顔グランプリ”

みんな笑顔で、心の憂さをふつとばせ=都立大・安全就業研修会で

私たちがこの世代は、第二次大戦勃発の時と同じく、六十数年ぶりの赤城山腹の噴火に見舞われ、約二十年周期の噴火に遭遇し、被りながら、わざわい転じ

て福と為す」を實踐して、繰返えす破壊と復興の苦難を乗り越え、ひたすらふるさとの発展と子育てに身を粉にして働いてきました。

やれやれと一息ついて、ふと気付けば還暦はとうの昔に過ぎて、今、また世界に類例のない火山ガスの大量放出に為す術もない私たちではありませんが、時は「郷土愛」を育み、愛しさは益々つのるばかりです。ふるさとの土をこの足でしっかりと踏みしめるその日まで、決してくじけることはないでしょう。

会員の皆さんが、早朝の満員の電車でもみくちやになりながらの通勤に耐え、多少の不満は胸の奥にしまい込んで、お互いに助け合い励まし合ってきたこの三年間の経験は、きつと当センターのかけがえのない宝になるものと信じています。

ヘルパー2級に 四人挑戦

昨年が続いて開講する高齢者事業振興財団主催の二級ホームヘルパー養成研修の希望者を募集したところ、島民四名の応募がありました。この研修会は、主に多摩地区の高齢者を対象にしたものですが、帰島後のヘル

伝言板

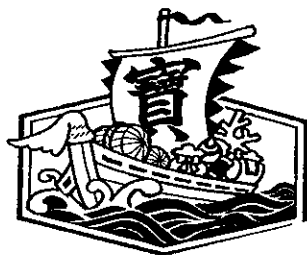
配分金支払日
配分金はあなたの口座に振り込みます
二月一〇日(火)
三月一〇日(水)
四月一二日(月)

支払い明細書送付

☆確定申告をしましう
この一年間に支払われた配分金は、雑所得となり確定申告が必要で、申告のための「支払証明書」を近日中に送りますので、紛失しないよう大切に保管してください。
詳しくは、お近くの税務署又は芝税務署(TEL:03-3455-0551)にお問い合わせください。

- ★平野 清 恵 (阿古)
- ★葛西 梢 (神着)
- ★窪寺 竹子 (阿古)
- ★徳井 恵子 (阿古)

平成16年 1月10日発行



広場



投稿歓迎

皆様のご意見やお便りをお待ちしています。
詩歌やエッセイなど大歓迎、ご投稿下さい。

三宅村シルバー ホームページ・アドレス
URL <http://www9.ocn.ne.jp/~msjc3050>
E-mail miyakesc@tokyosilver.or.jp

帰島めざして元気で就業

＝安全・適正就業巡回指導員 鈴木光憲＝

三宅島のみなさん、明けましておめでとうございます。思いがけない避難生活を強いられ大変なご苦労をされていることと心からお見舞申し上げます。島の生活とは異なり、空気も人も街の動きも避難前の生活環境とは大違いで戸惑っていることと思います。

しかし人間は、いかなる環境にも自然と順応できる精神力と忍耐力・活動能力があると信じます。

いまセンター会員の人たちが、逆境に立ち向かい、日常の生活に張合いを見いだして仲間と共に働き、慣れない生活環境の中でも助け合っている姿を目のあたりにすると私自身が励まされてきます。

5年前、シルバーの仕事で三宅島を訪れたことがありました。海や山のどこまでも澄みきった紺碧の青さ、自然が織りなす樹林の不思議さ、そして寂とした大路池のたたずまいと小鳥のさえずりに感動しました。

いま活動が沈静化しつつある雄山にも登りましたが、頂上付近の岩の隙間から水蒸気が立ちのぼっていたことを思い出します。

山は生きていたのですね。

しかしながら、いまの状況が未来永劫続くことはないはずで、噴火活動がやがて終焉し避難生活が終わりを

告げる日も、そう遠くはないでしょう。

さて、島にいたときと違い、仮の住まいと就業現場への道程が遠く、電車やバスを乗り継がなければならず大変なケースが多いことと思います。

現在のシルバーの仕事は厳しい社会経済状況の中で、選択肢が限られています。住まいの近くで仕事ができればよいのですが、そういかないのが現実です。

いま、都内シルバーの会員の事故が増えています。14年度の傷害事故発生件数がついに500件を超えました。その半分以上が徒歩や自転車に乗っての「転倒、つまずき、衝突」などの事故です。高齢化が進むにつれて、誰でも運動・反射神経が鈍くなってきます。

いちばん顕著な例が歩行する際の足の運びです。つまり膝と足首が上がりにくくなり「すり足」になってしまい、つまずきや転倒という事故に繋がってしまいます。

三宅村シルバーは自転車で現場に通うことを禁止しているとは伺っていますが、休みの時でもなるべく自転車に乗らないようにしてください。

歩く基本は、①かかとから着地・つま先でける、②首の動きの硬さをほぐすため「左右の目視励行」、③駅の階段の上り下りには「人混みの過ぎるのを30秒待つてゆっくりとあせらずに」を心がけることです。

また、日常から一定の生活リズムを保つことも大切です。できるだけ毎日身体を動かし、仕事を続け、一日も早く元気で島に帰られますよう祈っています。

立川支所だより パソコン教室

新しい年を迎え、「よし、今年こそは！」と心に決めていた方、立川支所にお電話ください。パソコンの基本操作から簡単な表計算や文書作成、そしてファイル管理などを学びます。自分のおし込みください。尚、三回とおし込みの受講もできます。係員らにご相談ください。島民の方などなたでも参加できます。

一月

▶ 入門Ⅱステップ1
一月二八日～三〇日

二月

▶ 入門Ⅱステップ2
二月二五日～二七日

三月

▶ 入門Ⅱステップ3
三月二四日～二六日

（ファイル）の管理方法

各六名

電話所 三宅シルバー立川支所
042-548-3717

△会員の入退会

退会しました。長い間、ご苦労様でした。福本幸生

平成15年11月分事業実績 (単位:円)

月	区分	受託件数	就業延日	契約金額			計
				配分金	材料費	事務費	
11	公共	6	974	6,395,980	826,312	722,230	7,944,522
	民間	1	6	7,400	0	0	7,400
	計	7	980	6,403,380	826,312	722,230	7,951,922
累計	公共	42	8,785	57,083,190	3,851,115	6,092,754	67,027,059
	民間	17	445	2,959,520	2,000	4,425	2,965,945
	合計	59	9,230	60,042,710	3,853,115	6,097,179	69,993,004

備えあれば憂いなし

◆ 旅行バッグ又は紙袋に、3日外泊できるような洗面用具などをまとめておきましょう。

◆ 電話のそばに自宅の住所、電話番号、緊急時などに連絡したい親戚、友人などの電話番号を貼っておきましょう。

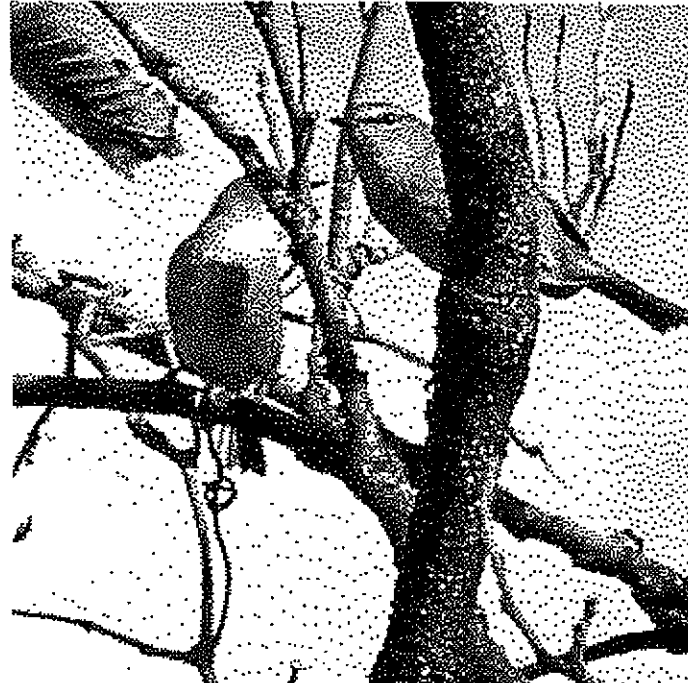
◆ 高松町の皆さんにとって大変寒い寒さを迎えます。救急車なんて他人事と？ 万が一ではありませぬ。今すぐ実行して、そのことを今すぐ実行してしまおう。

◆ 電話のそばに自宅の住所、電話番号、緊急時に連絡したい親戚、友人などの電話番号を貼っておきましょう。

三宅島の自然は今

雄山の火山活動が始まって3年半が経過しました。

山頂の火口から継続的に出ている火山ガスによって、島の東側と南西側では住宅や山林に大きな被害が出ています。環状林道付近から山頂付近にかけては、これまで樹木がほとんど見られませんでしたが一歩で緑が回復してきています。一方で、これまで比較的被害の少なかった大路池や新澤池付近では火山ガスのためにスダジイやヤブツバキが新たに枯れ始めているところもあります。今号ではそんな島の自然の様子をお知らせします。



環状林道付近では、これまではガスによって枯れた木ばかりが目立っていましたが、地面に目を向けてみると、少しずつですが生命の息吹が感じられてきました。

地表をおおい始めたのはオオシマカンスゲです。これまで林の縁や道ばたにわずかに生えていただけであまり目立たなかった植物ですが、樹冠の木の葉がガスによって落ちて林内の日当たりがよくなったためか、数が増えてきました。また、火山灰が積もっていた場所で生えてきたのがハチジョウイタドリとハチジョウススキです。特にハチジョウススキは、ガスがあまり流れない雄山北西側の斜面では順調に増えてきています。積もっていた火山灰の下からツルを伸ばしてきているのはサルトリイバラです。サルトリイバラは火山灰の下に埋もれていた種子(埋土種子といいますが)が発芽し、火山灰を突きぬけて地表に出てきているものと考えられます。島の東側の山林ではユノミネシダというシダがものすごく増えてきています。葉がいく重にも対称的に裂け、葉先が丸いのが特徴です。和歌山県本宮町の湯の峰温泉で見つかったのでこの名がついています。火山ガスに対して強い植物の1つと考えられます。

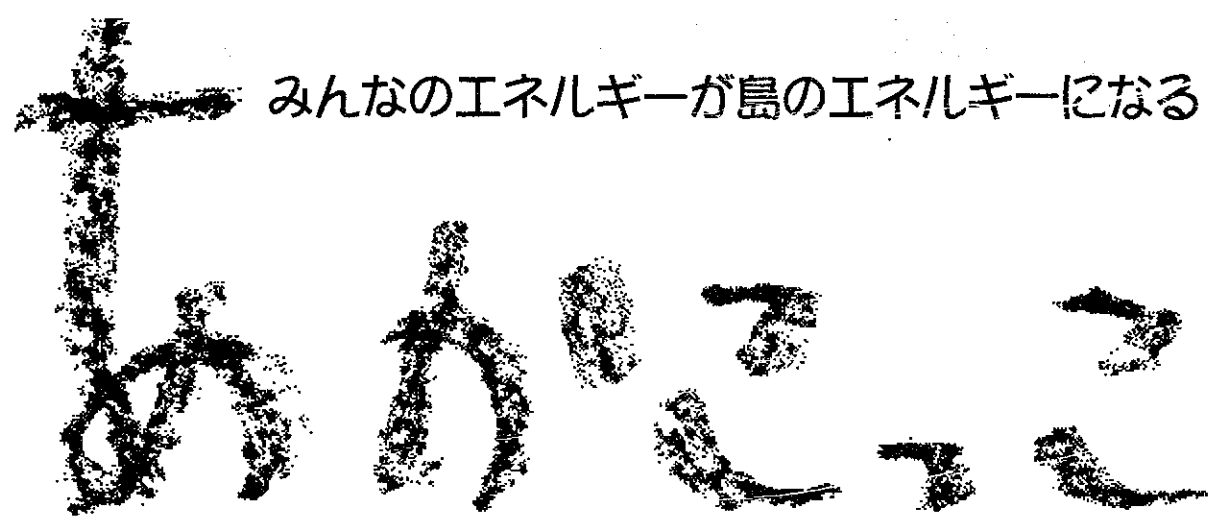
アカコッコやカラスバトなど、島を代表する野鳥は大丈夫です。特に大路池周辺や三宅高校周辺、伊豆地区、神着地区などでは姿がよく見られます。昨年11月に島を訪れた際には、ヤマガラがスダジイの実をさかんに貯食したり、メジロがアシタバの種子をついばんだりする様子も観察できました。オシドリやマガモなどのカモ類やオオバン、ノスリ、アオジなども、冬を過ぎしに島に戻ってきていました。

「アカコッコ館自然だより」を掲載中!

島の自然や生き物を下記のホームページで毎月紹介しています。ぜひご覧ください。

http://www.miyakemura.com/hiro/info_akakokkokan_top.htm

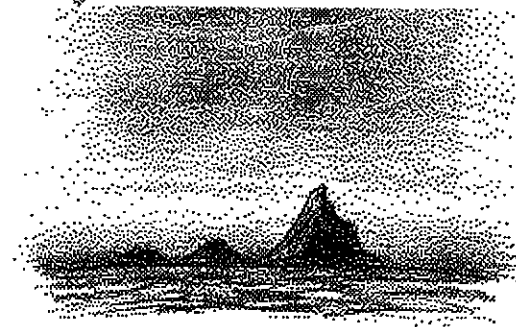
あかこっこ 93号 2004年1月発行
発行：三宅島自然ふれあいセンター アカコッコ館
〒100-1211 東京都三宅島三宅村坪田4188
連絡先：〒151-0061 渋谷区初台1-47-1
小田急西新宿ビル1F
財団法人日本野鳥の会 サンクチュアリ室
TEL：03-5358-3517 FAX：03-5358-3608



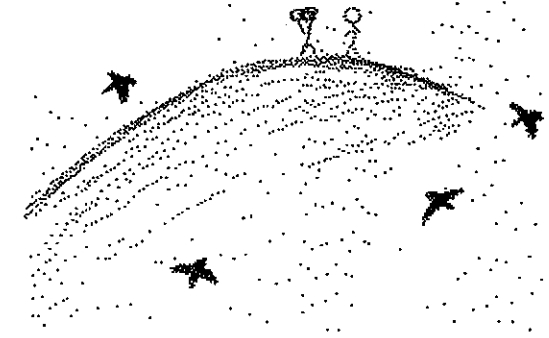
みんなのエネルギーが島のエネルギーになる

93号

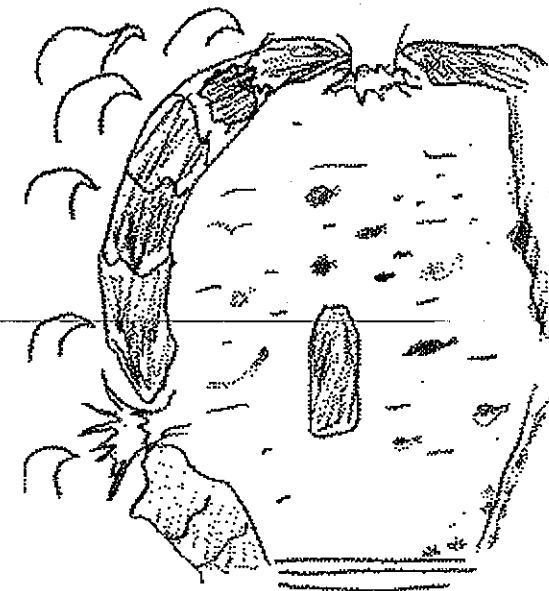
2004年1月



海と水平線と三本岳：三本岳の真ん中に夕日が沈むころ、よく写真を撮りに行きました。夕日が沈むときに海で泳いでいると、目と同じ高さにある夕日にとけそうになります。



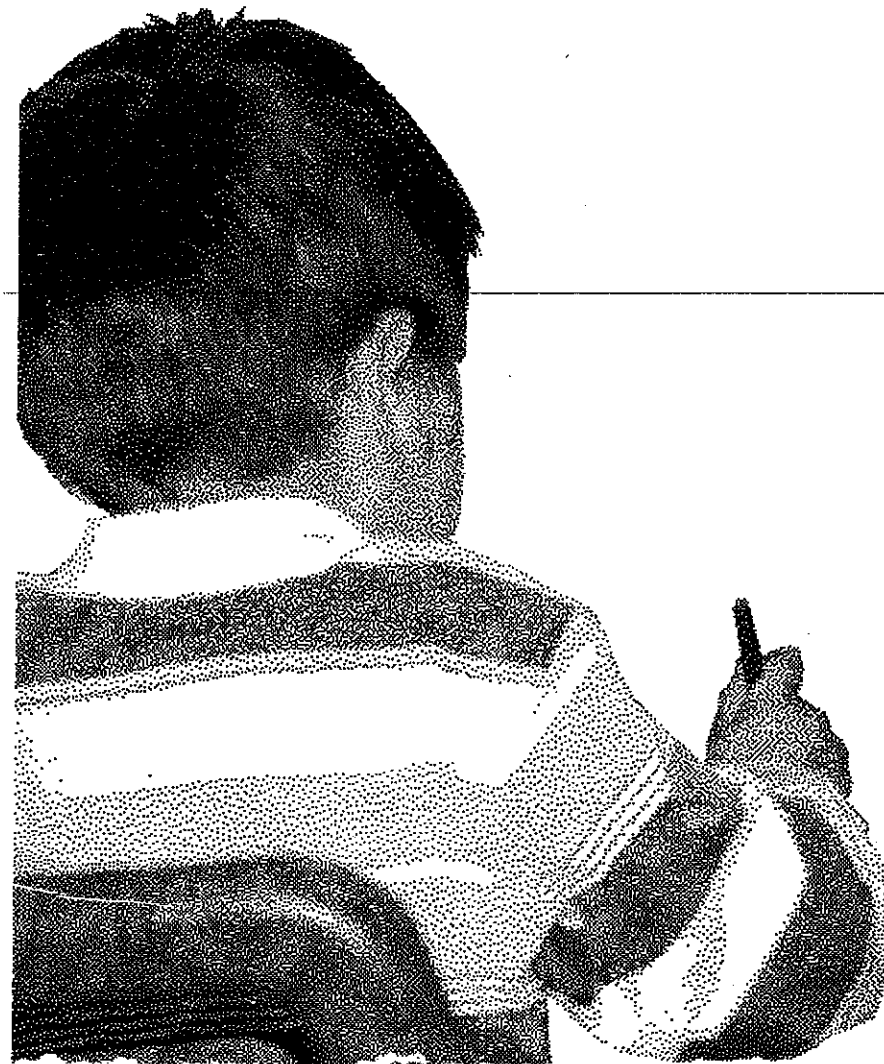
雄山：八丁平の一面に広がる緑の中で、アマツバメが飛びあがってくる様子を眼下に見たことがとても印象に残っています。

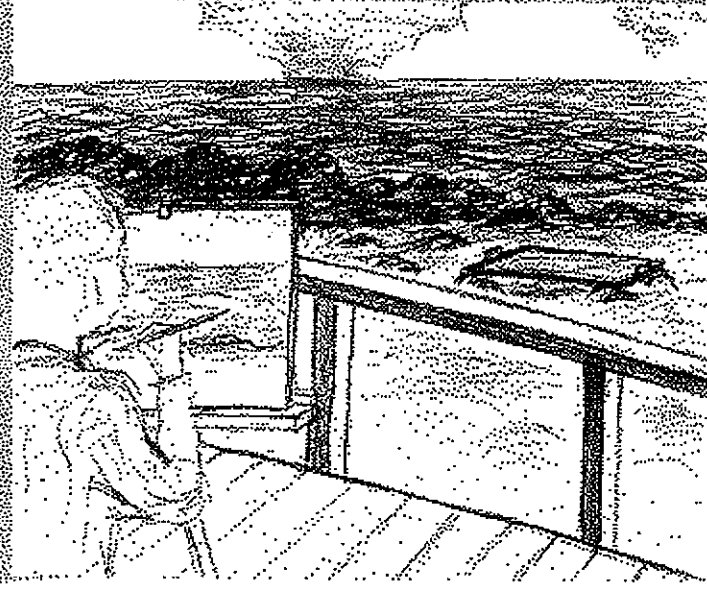
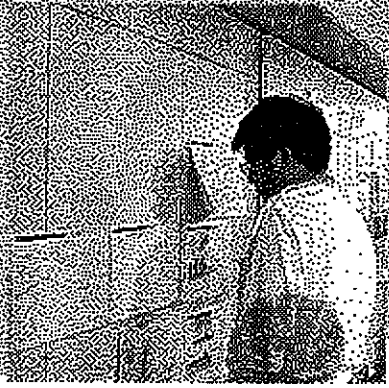


長太郎池：熱帯生まれの魚たちが集まる長太郎池で、朝昼夕夜と時間を変えてフィッシュウオッチングをしていました。

島のお気に入りの場所

阿古の海岸から見る夕日、鳥の鳴き声に囲まれながら散歩した伊ヶ谷林道、珊瑚礁の魚の中を泳いだ錆ヶ浜や富賀浜、みんなで寝ころんで大きく深呼吸をした八丁平。ここに描かれているのは「島の話をしよう」に参加したみなさんの島のお気に入りの場所です。





海が見える庭で毎日海を眺め、絵を描いて、バーベキューをし、歌をつくって演奏して暮らす。もちろん毎日海で泳ぎ、潜って、魚と遊ぶ。

それらのことを考えたり、まわりの人たちと話をしていないような気がするのです。そこで、島の写真を持ち寄ってこれまでの島の暮らしを思い出し、好きだったところ、イヤだったところ、これからどうしていききたいのかなどを、絵に描いたり、文章を書いたりしながら考えていきたいと考えたのです。



噴火から3年が過ぎ、少しずつ帰島へ向けて動き始めている今、アカコッコ館はみなさんとゆっくり島の話をしたいと思い、10月25日に南大沢センターで「島の話しよう」という催しを行いました。島で暮らす不安や楽しさ、自然の美しさとかわさ、そしてこれからの暮らし。思うことはいろいろあるのに、日々の暮らしの中であまりじっくりと

島に帰ったらこんなことがしたい

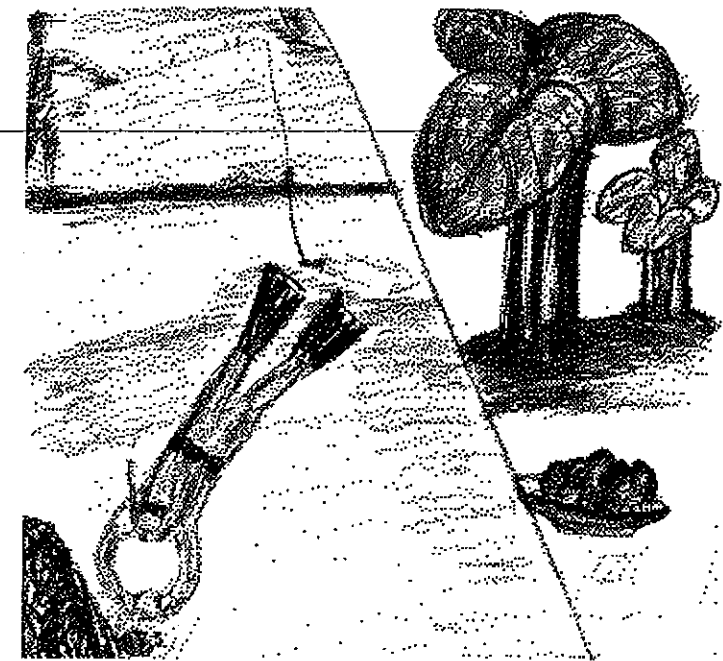


浜で海を眺め、星空を眺め、みんなとおしゃべりをして、心豊かに過ごしたい。いままであたりまえにやっていたことを、再びあたりまえにやりたい。

参加者のみなさんと一緒に島の写真を見ながらお祭りの話をしたり、雄山の地図を見ながら噴火のときの話をした後、自分だけのお気に入りの場所を描いたのが表紙のページの絵です。これ以外にも「最初は草原だったのにだんだんと木が育って森になっていった新瀉池跡」や「カンムリウミスズメが子育てをしている三本岳」「唯一家から歩いていける海岸の伊豆岬」など、島に住む私たちならではの気に入りの場所がたくさん描かれました。また、島に帰ったらしたいことを絵や言葉にして壁に貼っていくと、「海でザブンザブン遊びたい」「噴火前に1度しかあげられなかった鯉のぼりをまたあげたい」「海藻を使う技術を教えてもらってブダイを釣りたい」「誰もが互いに声かけあえることがあたりまえだったので、そのように戻りたい」など、私たちは島で毎日やっていたふつうの暮らしをこれからもしたいと願っていることに気がつきました。

そして「避難生活の中で5地区の文化の違いを知ったので、帰島後は三宅島が1つの村になれるように努力したい」「噴火の自然への影響を調べていきたい」「避難生活の中で関わった人たちに三宅島にきてもらって、三宅島の料理をごちそうしたい」という、噴火や避難生活を経験して感じたことや考えたことなども見えてきました。

これらの「噴火前のふつうの暮らしをしたい」という願いや、「早く島に帰りたい」という思い、そして「避難生活中に気づいたことを島に帰ってから活かしたい」という希望など、私たちのさまざまな思いや考えがこれからの三宅島をつくっていくのではないのでしょうか。アカコッコ館は、三宅島がこれからも豊かな自然と共に楽しく暮らせる島できるように、今後もみなさんと一緒にさまざまな試みを行っていきたくて考えています。ぜひご参加ください。



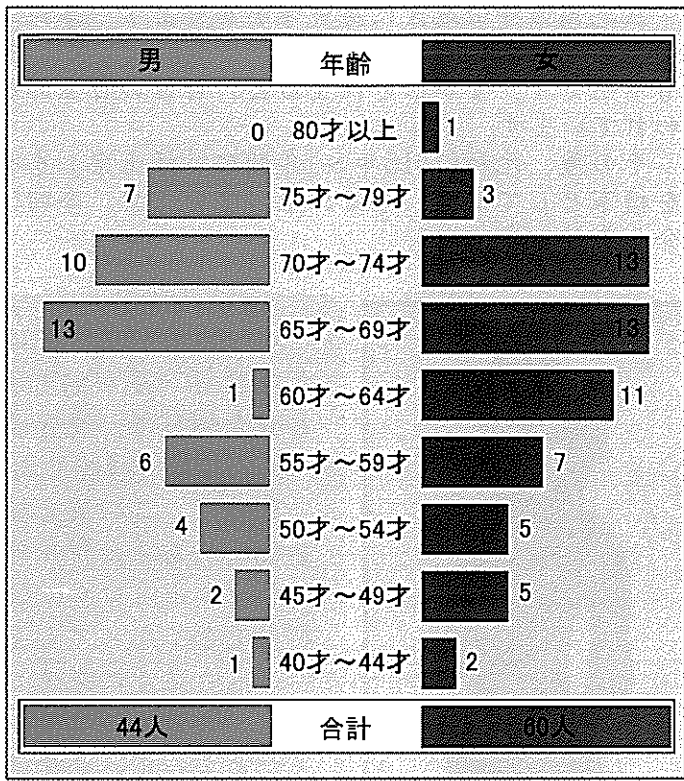
子どもたちと島の自然にふれあいながら暮らしていきたい。フィッシュウォッチング、バードウォッチング、海や畑から採れたおいしい食材を料理して食べたい。

農場の年齢構成

平成15年10月から始まった後期、総勢104名の島民が農場で働いています。この男女別年齢構成をグラフにしてみました。これを見ると、男女とも60才代後半から70才代後半までに大きな塊があります。高齢者の職場であることが改めて確認されました。しかし、この集団の3年間を振り返ると、年齢を感じさせない素晴らしい実績が浮かんで来ます。

- ・暑さ、寒さを気力と体力で乗り越え、救急車のお世話になっていない。
- ・平成13年4月、農場開設以来、この農場で働いた人で死亡者が一人もいない。

気力と体力の継続こそ、避難生活の重要な要素と感じています。



来場者紹介

【見学等】

- ・島民の方
井沢庄一郎、浅沼君香、吉野好泰、浅沼ナルエ、浅沼りはる、栗本コウ、山田紳佑璋、平松一成、宮田信之、菊地久雄、前田弘明、井上静馬、岩本正光、石井節美
(あじさいの里) 桜田博実・歌子、壬生久子、斉藤実、山本敏子、上田春江、池田浦子、根岸美和子、山本トキワ、浅沼みちる、酒井一豊、水原光夫、元木正春、上松京子、村上良子
(三宅村教育委員会) 浅沼和男、山田照一、種岡美善、平野充、島沢紀久、長谷川崇、広瀬忍、内田承次
(三宅村議会議員) 高松啓展、浅沼徳広、谷寿文、寺本恒夫、浅沼功一郎、寺沢晴男
- ・三宅島警察署の皆さん

- ・黒須隆一八王子市長
- ・萩生田富司八王子市議会議長
- ・東村邦浩都議
- ・東京農民連 武山健二郎
- ・宇津木台小学校 児童96名、先生4名
- ・日本大学大学院生 杉山愛
- ・元三宅児童・生徒支援センター 奥住仁志

【取材等】

- ・家の光
- ・NHK首都圏放送センター
- ・公明新聞
- ・フリーカメラマン 伊予田成美

(順不同・敬称略)

げんき農場へ来るには

JR八王子駅北口『12番』乗り場、または京王八王子駅『4番』乗り場より、『稲荷坂下』バス停で下車徒歩約10分。「ひよどり山中学校」のすぐそばです。
※ 両乗り場とも「純心女子学園」行きは2系統ありますので、「稲荷坂下」を通るか乗車の際にお尋ねください。

三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーはインターネットで見ることが出来ます。三宅島のホームページ「村民のひろば」の「げんき農場情報」をお訪ねください。

「村民のひろば」アドレス: http://www.miyakemura.com/hiroba_index.htm

三宅島「げんき農場」だより

発行元 三宅島げんき農場
所在地 八王子市宇津木町236-1
Tel&Fax: 0426 - 27 - 4355
e-mail: genki-farm@nifty.com

明けましておめでとうございます



迎春



新年を迎えて

三宅島での正月は年末・年始とも全ての面で楽しく、『新年』にかける期待と夢は限りなく大きいものでした。古い言葉に「盆と正月が一緒に来たようだ」とか「三日正月」などと言われるように、大人も子供も最高に華やいた楽しい幾日かを過ごしました。

農場で働く仲間達にも色々なドラマがありました。最愛の夫や子供に先立たれ、人生最悪のどん底を経験した人、健康を害し自宅で療養中の人、三宅の復旧工事に従事した人、悲喜こもごもでした。今私達の最大の悩み、苦しさは「先の見えない日々」ではないでしょうか。

- 「三宅の雄山が噴出する二酸化硫黄ガスはいつ終息するのだろうか」
- 「住宅や家財道具などはどれほどの損害になるのだろうか」
- 「三年三ヶ月、年を取った今、何人が島に帰れるのだろうか」等

人はそれぞれに人生設計という大きな課題を持っています。この課題こそ、生きている価値であると思います。愚痴や不満で問題は解決しません。自分自身の努力と行動による再建こそ、島の再建であると考えます。頑張ろう、みんなで助け合いながら。

三宅島げんき農場 農場長

新年に寄せて -

東京都農業振興課長 半田 保之

平成16年は、これまでにない暖かな年明けとなりました。

三宅島の皆様におかれましては、住み慣れた島を離れた暮らしが続き、ご苦労が多いことと存じます。改めてお見舞い申し上げます。

さて、三宅島げんき農場も、3回目の冬を迎えました。暖冬とは言え、八王子の寒さは島とは比べものになりません。しかし、農場の皆様の熱意と元気な作業で、赤芽やアシタバ、ウコンなどの種苗は、順調に確保されています。また、農場は、開設したときに比べて見事な畑に生まれ変わっています。



平成14年3月18日、天皇皇后両陛下の行幸・啓の際、ご案内役を務めたときの半田さん

私事になりますが、げんき農場は、私の三宅島との三度目のお付き合いになります。これまでは二度、島で農業改良普及員としての仕事をしてきました。その仕事を通じて私は、いくつかの点を学びました。

ひとつは、島の皆さんの知恵と技術です。自然が豊かである一方、噴火災害、台風などでしばしば被害を受けてきた島は、必ず立ち直ってきています。そのポイントは、農地などを危険分散すること、災害から農地を守る防風林を大切にすること、そして切換え畑でいつも若々しい農地を確保できる技術があることと思います。

次に、農業を着実に続けてきたことです。多くの産地では、とかく大規模な投資と施設化が目につきます。そして、自家用の野菜栽培などは「買った方が安い」などと敬遠されがちです。しかし三宅島の皆さんは、自家用などの野菜づくりによって、農作物を栽培する技術と、農地を管理する技術を維持してきました。これが基本となって、島外に移出するアシタバやレザーファンなどが素早く、また着実に定着したのです。

さらに、島同志の連帯です。レザーファンやアシタバは、これからの三宅島の農業にとって中心になるものとして期待したい品目です。私は島の赴任当時、当時の試験地や役場の皆さんと、アシタバの種採りレザーファンの増殖に苦戦してきました。そこへ、「心配ない。これらの種苗は、他県はともかく三宅島へ提供する」という、隣島の農業協同組合の役員さんの一言に、大いに力づけられたことを思い出します。

三宅島の皆さんは、こうした知恵と経験、技術など素晴らしい財産を持っています。私はこれからも皆さんと力を合わせ、島の復興に「げんき」に取り組んでいきたいと考えております。

年末餅つき会

年の瀬も迫った昨年の12月11日、げんき農場の恒例行事となった「餅つき会」が行われました。

天気は今にも降り出しそうな曇り空。しかし、予定通り実施することを朝礼で発表すると、場員の顔は晴れ晴れとし、意気揚々と作業が始まりました。役割分担に沿って手際よく準備は進み、つぎつぎに餅がつかれていきました。

臼での餅つきは経験が無いと結構難しいものです。つき手と息を合わせる「合取」(あいどり=こねる役)は更に難しい作業です。しかし、農場で働く仲間達の年代は60才代後半から70才代の高齢者が中心で、まさに「昔取った杵柄」ここにあり。男も女も力強く杵を握り餅をつきました。つく度に大きな掛け声が上がリ、臼の周りは人の輪ができていました。



明るく楽しい共同作業に勝るものは無いと実感を深めた一日でした。

げんき農場で作ったサツマの煮切り干しをお分けします

昨年の不作で、一時はサツマイモの煮切り干し作りもどうなることかと心配しましたが、最終的にはほぼ昨年と変わらない量を作ることが出来ました。当初、出荷数を控えさせて頂いたこともあり、若干ですがまだお分けできる量が残っています。これから餅つきを計画されている地区の島民自治会などありましたら、ファックスにてお申し込み下さい。但し、宅配便の着払いでの受け取りが出来る方、または直接農場に引き取りに来て頂ける方に限らせて頂きます。

なお、お申し込みの際は、代表者名にて、1)自治会名等、2)連絡先住所・電話番号、2)煮切り干しの必要数(臼の数で)、3)餅つき会の開催日、4)発送先、5)発送希望日をお知らせください。

苦しいときの神(佛)頼み - 海蔵寺の観音様伝説

三宅島の坪田地区に海蔵寺があります。享保二年(1717年)、坪田地区を襲った大火災に海蔵寺も巻き込まれ、過去帳等の全てを消失してしまいました。現在では、開基(*1)の年代、由緒とも不明です。言い伝えによると、百姓の百五郎が開いたことから「百姓寺」と称されたとも言われています。

その後、元和(1615年~)年間に「浄土宗」を公称し、増上寺の末寺となり、坪田地区の住民を檀家として掌握、今日に至っています。今回は、この海蔵寺にまつわる不思議な伝説をご紹介します。



いつの頃か定かではありませんが、ある日、三池浜に観音像一体と双盤(*2)一基が漂着(網に掛かったとも口伝えあり)しました。両方とも青銅製で、観音像は全高39.5cmの小さな像ながら、氣品に富んだ立派な観音様でした。

その後、この観音様を坪田の寺に置くのはもったいないと、当時島役所があった伊ヶ谷地区に移すことになりました。ところが、一同が千本山入口(*3)に差しかかると、観音様が急に重くなり運ぶことが出来なくなってしまいました。そんな馬鹿な話があるかと、伊ヶ谷の人も応援に来ましたが、やはり運ぶことは出来ませんでした。それではと、船に積み替え海上を進んだのですが、新鼻(*4)近くまで来たところで、今度は船が進まなくなりました。こうして、やむなく坪田・海蔵寺に置くことになったとのことです。

さて、海蔵寺に保管されていたこの観音像は、昭和32年、国の重要文化財に指定されるや、多くの学者、専門家から賞賛され、『小金銅佛』(松原三郎・田辺三郎助共著)は「白鳳期金銅佛の代表作」と激賞し、また『古代小金銅佛』(矢野健著)では次のように書いています。「本像は飛鳥時代から天平時代まで五期に分けた中の四期、すなわち文武天皇の初年(697年)から天平20年(748年)頃までに制作、第四期諸像中でも比較的古様を残している。」

また、土淵正一郎氏の学説「関東四体白鳳佛」によると、関東における白鳳期の仏像は、①調布市(深大寺)・釈迦如来像、②千葉県(竜角寺)・薬師如来像、③国分寺市(武蔵国分寺跡)・観音菩薩像、④三宅島(海蔵寺)・観音菩薩像の四体が確認されています。

更に、平成4年8月29日~10月19日、熱海市のMOA美術館が開催した「伊豆国の遺宝」展では、出品物の中で最も古く(奈良時代初期)に作られ、国の重要文化財の中でも秀作と評価されました。同展記念誌写真版では、仏像としてトップに掲載されました。

果たして、関東に稀なこの白鳳の秀作を南海の離島に持ち込んだのは誰か。この島に流された貴人が念持佛(*5)として持って来たものではないか、とも言われていますが、今もって謎に包まれています。海蔵寺では、年に一度ご開帳(*6)し、檀家に拝観を許されました。当然のことながら、「観音様」も現在は都内に避難中です。

- (*1)【開基】(かいき):寺を開くこと
- (*2)【双盤】(そうばん):念仏を唱える際に用いる鉢(かね・どら)
- (*3)【千本山入口】:現在の道澤橋付近
- (*4)【新鼻】(にっぱな):新澤池の前浜
- (*5)【念持佛】(ねんじぶつ):持ち歩いて祈願した仏像
- (*6)【ご開帳】:普段は厨子の中に安置されている秘仏を、特定の期間、一般に拝観させること